



鳥文斎栄之(三福神吉原通い図巻)絹本着色1巻 文政(1818-30)前期頃 千葉市美術館蔵



Chobunsai Eishi: The Samurai Turned Ukiyo-e Artist サムライ、浮世絵師になる! 鳥文斎栄之展



【関連イベント】

新春の獅子舞

1月6日(土)10:00～ 1階さや堂ホールで獅子舞がお迎えます。
出演：登渡神社登戸神楽囃子連

講演会

「浮世絵と武士階級」

2月3日(土)14:00～(13:30開場予定) / 11階講堂にて
【講師】内藤正人(慶應義塾大学教授)
聴講無料 / 先着100名(当日12:00より1階にて整理券配布)

「浮世絵ウィーク」

1月20日(土)～1月28日(日) / 1階さや堂ホールにて(参加無料)
彫摺の道具類や絵具、摺の工程を示す順序摺、用いられた絵具等の展示、重ね押しスタンプの体験に加え、摺の実演、江戸時代からの伝統芸能なども予定しています。新年のひととき、江戸文化を楽しみましょう。
1月20日(土)14:00～ 浮世絵の摺実演と解説(アダチ伝統木版画技術保存財団)
1月21日(日)10:30～12:00、13:30～15:00
美術館ボランティア「もくもく会」による木版多色摺体験
1月27日(土)11:00～ 飴細工実演(飴細工師 花輪茶之介)
※詳細は美術館ホームページをご確認ください。※混雑時は、入場を制限する場合があります。

「空育® JAL折り紙ヒコーキ教室」(事前申込制)

海外からの作品を空輸した日本航空の協力で開催するワークショップです。
2月4日(日)11:00～ / 14:00～ / 11階講堂にて
参加無料 / 対象：小学生以上 / 各回定員15組(2名まで申込可)
※詳細、申込方法は美術館ホームページをご確認ください。

市民美術講座

「鳥文斎栄之とは何者か—その生涯と画業について」

1月13日(土)14:00より(13:30開場予定) / 11階講堂にて
【講師】染谷美穂(当館契約学芸員)
聴講無料 / 先着100名(当日12:00より1階にて整理券配布)

「栄之 vs. 歌麿 / 西村屋 vs. 葛屋—黄金期の出版界」

2月17日(土)14:00より(13:30開場予定) / 11階講堂にて
【講師】田辺昌子(当館副館長)
聴講無料 / 先着100名(当日12:00より1階にて整理券配布)

担当学芸員によるショートレクチャー

会期中の毎週木曜日 14:00-14:30 / 1階多目的室
先着30名程度 / 参加無料

美術館ボランティアスタッフによるギャラリートーク

会期中の毎週水曜日 14:00-
先着15名(当日13:30より8階受付にて整理券配布)
※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。※混雑時には中止する場合があります。

ちばしび託児サービスデー(事前申込制)

子育て中の方も、安心してゆっくりと美術鑑賞をお楽しみください。保育士の資格を持ったベビーシッターがお子さまをお預かりします。
1月24日(木)、2月17日(土)13:00-16:00
※詳細、申込方法は美術館ホームページをご確認ください。

【同時開催】

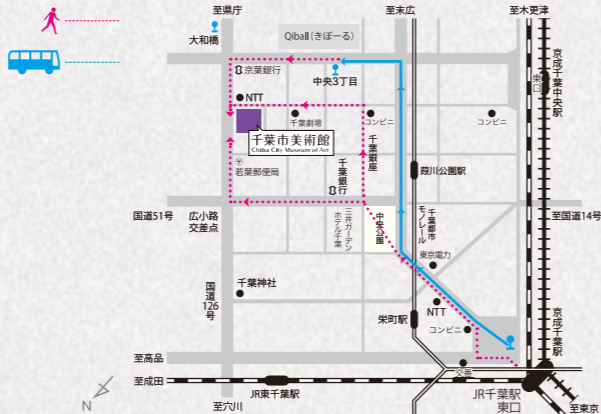
7階企画展示室「武士と絵画—宮本武蔵から渡辺崋山、浦上玉堂まで—」
5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」 休室日：第1月曜日
※「サムライ、浮世絵師になる！鳥文斎栄之」展をご観覧の方は無料
4階子どもアトリエ
「つくりかけラボ13 黒田菜月 | 野鳥観察日和」
2023年10月28日(土)～2024年1月28日(日)
「つくりかけラボ14 荒井恵子 | 和紙のフトコロ 墨のボウケン(仮称)」
2024年2月14日(水)～5月26日(日)
休室日：第1月曜日 / 観覧無料

【次回展予告】

「第55回 千葉市民美術展覧会」
2024年3月9日(土)～3月29日(金)
「千葉市美術館所蔵作品による房総ゆかりの美術 特集：石井光楓」
2024年3月9日(土)～3月29日(金)
「板倉鼎・須美子展(仮称)」
2024年4月6日(土)～6月16日(日)
「千葉市美術館コレクション選 石井光楓展(仮称)」
2024年4月6日(土)～6月16日(日)

※館内に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。
※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

【アクセス】
JR千葉駅東口より ■徒歩約15分
■バスのりは⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分
■千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分
京成千葉中央駅東口より ■徒歩約10分
東京方面から車では ■京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
※地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。※シェアサイクルスポットがあります。



千葉市美術館 〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Chiba City Museum of Art TEL.043-221-2311(代表) https://www.cma-net.jp



2024年
前期：1月6日(土)～2月4日(日)
後期：2月6日(火)～3月3日(日)

開館時間：10:00～18:00
(金・土曜日は20:00まで)
入場受付は閉館の30分前まで
休室日：2024年1月9日(火)、
15日(月)、2月5日(月)、13日
(火)(第1月曜日は全館休館日)
主催：千葉市美術館、東京新聞
協力：日本航空
千葉市美術館：〒260-0013
千葉市中央区中央3-10-8
Tel.043-221-2311(代)
https://www.cma-net.jp



世界初開催！

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

武士に生まれ、

浮世に生きる—



将軍の絵具方から浮世絵師へ *From Shogunal Enogu-kata to Ukiyo-e Artist*

十代将軍徳川家治は、絵を描くことを好んでいたと伝えられています。将軍のために絵具の用意をする係であったといわれる栄之は、御用絵師狩野栄川院典信に師事し、狩野派の絵師として経歴を続けることも可能であったはず。なぜ栄之は浮世絵師を志したのか、栄川院の作品をきっかけとして、サムライから浮世絵師へ、謎に満ちたデビュー時の姿をイメージします。



隅田川の絵師誕生 *Birth of the Sumida River Artist*

のちにスター絵師となる喜多川歌麿も、葛飾北斎も、デビュー時は細判の役者絵という画面が小さく、販売に適した期間も短い、安価な錦絵制作からスタートしています。一方で栄之は、デビュー間もなく大判の、しかも見応えのある続絵を多く手がけています。なかでも隅田川の豪華な船遊びの続絵は、栄之という浮世絵師のシンボルとも言える代表作です。



鳥文斎栄之《吉野丸船遊び》 大判錦絵5枚続 天明7-8年(1787-88)頃 千葉市美術館蔵

歌麿に拮抗—もうひとりの青楼画家

Competing with Utamaro – Another Artist of Yoshiwara

栄之の錦絵における活躍は、寛政期(1789-1801)の喜多川歌麿の全盛期とも重なります。歌麿と同様「寛政三美人」や吉原の遊女を題材とした作品を多く出版しますが、栄之は独自の様式を確立して、後世「青楼の画家」と呼ばれた歌麿に拮抗する存在となりました。その状況は、栄之の主要版元であった西村屋与八と、歌麿を見出し育てた新興の版元蔦屋重三郎との販売競争関係としても読み解くことができます。



左：鳥文斎栄之《青楼美人六花仙 松葉や若菜》 大判錦絵 寛政6年(1794)頃 大英博物館蔵 The British Museum, 1945,1101,0,24 © The Trustees of the British Museum

右：鳥文斎栄之《松竹梅三美人》 大判錦絵 寛政4-5年(1792-93)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.14079 Photograph © 2023 Museum of Fine Arts, Boston



左：鳥文斎栄之《円窓九美人図》 絹本着色1幅 寛政7-8年(1795-96)頃 MOA美術館蔵 ※前期展示

下：鳥文斎栄之《和漢美人図屏風》 絹本着色6曲1隻 文化(1804-18)後期-文政(1818-30)前期頃 個人蔵

鳥文斎栄之

(ちょうぶんさい・えいし 1756–1829)は、旗本出身という異色の出自をもち、美人画のみならず幅広い画題で人気を得た浮世絵師です。浮世絵の黄金期とも称される天明～寛政期(1781-1801)に、同時代の喜多川歌麿(?-1806)と拮抗して活躍しました。

当初栄之は、将軍徳川家治(1737-86)の御小納戸役として「絵具方」という役目を務め、御用絵師狩野栄川院典信(1730-90)に絵を学びましたが、天明6年(1786)に家治が逝去、田沼意次(1719-88)が老中を辞した時代の変わり目の頃、本格的に浮世絵師として活躍するようになり、やがて武士の身分を離れます。

当時錦絵(浮世絵版画)は、一層華やかな展開期にありましたが、栄之もまた浮世絵師として数多くの錦絵を制作、長身で楚々とした独自の美人画様式を確立、豪華な続絵を多く手がけたことは注目されます。さらに寛政10年(1798)頃からは、肉筆画を専らとし、その確かな画技により精力的に活躍しました。寛政12年(1800)頃には、後桜町上皇の御文庫に隅田川の図を描いた作品が納められたというエピソードも伝わっており、栄之自身の家柄ゆえか、特に上流階級や知識人などから愛され、名声を得ていたことが知られています。



Chobunsai Eishi: The Samurai Turned Ukiyo-e Artist
サムライ、浮世絵師になる!
鳥文斎栄之展

重要な浮世絵師のひとりでありながら、明治時代には多くの作品が海外に流出したため、今日国内で栄之の全貌を知ることは難しくなっています。世界で初めての栄之展となる本展では、ボストン美術館、大英博物館からの里帰り品を含め、錦絵および肉筆画の名品を国内外から集め、初期の様相から晩年に至るまで、栄之の画業を総覧しその魅力をご紹介します。

会期中展示替えがあります。

【前期】1月6日(土)～2月4日(日) 【後期】2月6日(火)～3月3日(日)

観覧料：一般1500(1,200)円、大学生800(640)円、小・中学生、高校生は無料 ※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、団体20名以上、市内にお住まいの65歳以上の方の料金 ※前売券はローソンチケット(Lコード:31990)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて2024年1月5日まで販売(1月6日以降は、当日券販売)。 ※本展のチケットで、5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

☆ごひいき割引…本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料2割引

☆ナイトミュージアム割引…金・土曜日の18:00以降は、観覧料半額

【表面】タイトル横：鳥文斎栄之《関ヶ原合戦図絵巻》部分 紙本着色2巻 文政(1818-30)前期頃 奈良県立美術館蔵 / 人物：上の段右から鳥文斎栄之《浮世源氏八景 松風夜雨》部分 大判錦絵 寛政8-10年(1796-98)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, Nellie Parney Carter Collection—Bequest of Nellie Parney Carter 34.334 / 鳥文斎栄之《若部初様 丁子屋 いそ山 きもち たまじ》部分 大判錦絵 寛政7年(1795)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.14036 / 鳥文斎栄之《松竹梅三美人》部分 大判錦絵 寛政4-5年(1792-93)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.14079 / 中の段右から鳥高斎栄昌《郭中美人殿 大文字屋内本津枝》部分 寛政9年(1797)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.21185 / 鳥文斎栄之《蒙六花撰 喜撰法師》部分 大判錦絵 寛政8-10年(1794-96)頃 大英博物館蔵 The British Museum, 1927,0518,0,5 / 下の段：鳥文斎栄之《貴婦人の舟遊び》部分 大判錦絵3枚続 寛政4-5年(1792-93)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.14119-21 © The Trustees of the British Museum. All rights reserved. / Photograph © 2023 Museum of Fine Arts, Boston

Elegance of Colors: 色彩の雅—紅嫌い



鳥文斎栄之《風流やつし源氏 松風》 大判錦絵3枚続 寛政4年(1792)頃 大英博物館蔵 The British Museum, 1907,0531,0,436,1-3 © The Trustees of the British Museum

『源氏物語』など、古典主題を江戸の風俗に置き換えて描く「やつし絵」が多く知られるのは、栄之の錦絵の特徴の一つです。多くが武家や公家の上流階級の姿に描かれ、品の良い画風に加えて、しばしば用いられた「紅嫌い」(赤い色をわざと避けた錦絵で、紫を多用するところから紫絵とも言う。)の手法が、古典主題を一層雅やかに見せています。

Success of Eishi's Pupils 門人たちの活躍

栄之は、多くの弟子を擁していました。主に錦絵出版の分野で活躍したのは、鳥高斎栄昌、鳥橋斎栄里、一楽亭栄水ですが、その人となりについてはほとんどわかっていません。いずれも師とは違って大首絵を多く手がけています。また栄昌と栄里が主に山口屋忠助、栄水が丸屋文右衛門と、師とは版元を分けていた状況からすると、何か棲み分けがあったものと思われる。それぞれに個性的な栄之門人の活躍の様相を展観します。



世界に1点

左：鳥高斎栄昌《郭中美人殿 大文字屋内本津枝》 大判錦絵 寛政9年(1797)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.21185 Photograph © 2023 Museum of Fine Arts, Boston

右：鳥橋斎栄里《近江八景 石山秋月 丁子屋内 雛鶴 つるしつるの》 大判錦絵 寛政7-9年(1795-97)頃 ポストン美術館蔵 Museum of Fine Arts, Boston, William Sturgis Bigelow Collection 11.15008 Photograph © 2023 Museum of Fine Arts, Boston

The Ultimate in Beauty—美の極み—肉筆浮世絵



寛政10年(1798)頃より、栄之は錦絵出版から離れ、肉筆画に集中するようになります。武家出身の栄之は、当時厳しくなっていた幕府の出版統制に、歌麿のように抗う立場を取ることもできなかったでしょう。若年期より磨かれた確かな画技は、華やかな肉筆の美人画を次々と生み出していきます。寛政12年(1800)頃に後桜町上皇の御文庫に隅田川の図を描いた作品が納められたというエピソードも伝わっており、栄之の作品はとくに上流階級や知識人などから愛されたことがわかります。



左：鳥文斎栄之《円窓九美人図》 絹本着色1幅 寛政7-8年(1795-96)頃 MOA美術館蔵 ※前期展示

下：鳥文斎栄之《和漢美人図屏風》 絹本着色6曲1隻 文化(1804-18)後期-文政(1818-30)前期頃 個人蔵

新発見